

令和 8 年度第 1 回成田市環境審議会 会議録

1 日 時 令和 8 年 8 月 4 日(火)13 時 30 分～14 時 20 分

2 場 所 成田市役所 議会棟 3 階 第一委員会室

3 出席者

(委員)

原 慶太郎会長、片岡 孝治副会長、藤村 葉子委員、志村 勇亮委員、小川 昌俊委員、
平山 泰之委員、岡田 綾子委員、山内 直美委員、須田 恭子委員、岡田 卓哉委員、
大見川 美津子委員、清田 修委員、菅澤 麗子委員、田中 昌子委員、入江 龍夫委員、
青木 紗里奈委員

(成田市)

環境部 藤崎部長

(事務局)

環境計画課:栗澤課長、北見主幹、檜垣係長、三上主査、大木副主査、大嶋副主査

(説明員)

環境対策課:渡部課長、宇佐美主幹、櫻井係長

クリーン推進課:小川課長、東主幹、渡邊主幹

環境衛生課:關谷課長、木村主幹、青嶋係長

4 傍聴者 1 人

5 会議次第

(1)開 会

(2)議 題

①2025(令和 7)年度 成田市環境基本計画年次報告書について【報告】

②2025(令和 7)年度 成田市一般廃棄物処理基本計画年次報告書について
【報告】

③成田市の環境 2025(令和 7)年版について【報告】

④動植物生息調査(第 4 次)について【報告】

(3)閉 会

●開会

●議事① 2025(令和 7)年度成田市環境基本計画年次報告書についての説明、質疑

【原会長】

それではこれより、議事に入ります。本日の議題は、(1)から(4)まで、いずれも報告事項となります。はじめに、議題1の2025(令和 7)年度成田市環境基本計画年次報告書についてであります。委員の皆様には、事前に資料を確認した上で、ご意見、ご質問を提出していただいております。それに対する事務局の回答についても事前に送付されていることと思います。

事務局からさらに補足説明などがありましたら、要点に限って簡潔にご説明をお願いいたします。

【環境計画課 三上主査】

では 2025(令和7)年度 成田市環境基本計画年次報告書について、私、環境計画課、三上よりご説明いたします。よろしくお願いいたします。事前に資料を送付させていただいておりますので、私のほうからは、要点を絞って、説明させていただきます。

はじめに、年次報告書の 1 ページ目から 6 ページ目までは環境基本計画の概要ですので、恐れ入りますが、説明は割愛させていただき、7 ページ以降の「計画の進捗状況」について説明いたします。

まず、8 ページをご覧ください。「重点プロジェクトⅠ 生き物・里地里山のふれあいづくり」の状況から説明させていただきます。

上段にあるプロジェクト推進目標・指標等の部分をご覧ください。

1 段目の「継続的・定期的な動植物生息調査の実施及び情報の提供」につきましては、令和 6 年度及び令和 7 年度の 2 か年度で動植物生息調査を実施しております。詳細につきましては議事 4 の「動植物生息調査(第 4 次)」において報告させていただきます。

3 段目の「生き物・里地里山のふれあい拠点の活用」につきましては、生き物・里地里山のふれあい拠点として選定した坂田ヶ池総合公園において、指定管理者及びなりた環境ネットワークと市の共催で自然観察会を合計 5 回開催いたしました。

ここで一つ訂正をさせていただきます。同じページの下にある「市の重点的取組」の表

で、上から 3 段目「取組の成果・評価」の部分をご覧ください。ここに、「植生調査、動物相・植物相の調査(秋季、春季)を行った。」とありますが、令和 7 年度の調査は、春と夏に調査を行っております。

つきましては大変申し訳ありませんが、「秋季」を「夏季」と訂正していただきますようお願いいたします。

次に、13 ページをお開きください。「重点プロジェクトⅡ ゼロカーボンシティ実現に向けたまちづくり」でございます。

上段のプロジェクト推進目標・指標等の部分をご覧ください。

表の 1 段目の項目、「市域における二酸化炭素(CO₂)排出量」につきましては、直近の 2022(令和 4)年度の市域における CO₂ 排出量は 158 万 7 千トン CO₂ となっており、基準年度比で 22.6 パーセント減少しております。令和 2 年度に引き続き、令和 3 年度も新型コロナウイルスの大きな影響を受けた年ですので、CO₂ が大きく減少したのは特殊な要因による可能性があります。今後につきましても、高い目標の達成に向けて、太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用の促進や省エネルギーの取り組みなどをさらに進めてまいります。

2 段目の「小中学校太陽光発電整備率」につきましては、前年度から変更ありませんでした。

3 段目の「成田市地球環境保全協定への参加事業所数」につきましては、令和 7 年度は 18 事業所増加し、219 事業所となりました。

4 段目の「成田市役所エコオフィスアクションによる CO₂ 排出削減」につきましては、現在市役所の各施設のエネルギー使用量データなどを取りまとめているところであり、次の環境審議会にてご報告させていただく予定です。

5 段目の「住宅用太陽光発電システムへの補助件数」につきましては、令和 7 年度の補助件数は 38 件、累計で 2,483 件となりました。

ゼロカーボンシティの実現に向けましては、今後も、本市の実情に合った有効な取り組みの検討を進め、市域の脱炭素化を推進してまいりたいと考えております。

次に、26 ページをお開きください。「重点プロジェクトⅢ 3R(スリーアール)による循環型まちづくり」の取組状況を記載してございます。こちらの内容につきましては議事 2 の「2025(令和 7)年度 成田市一般廃棄物処理基本計画年次報告書」において報告させ

ていただきます。

次に、34 ページをお開きください。「重点プロジェクトⅣ 環境交流のまちづくり」の取組状況について記載してございます。

上段の表のプロジェクト推進目標・指標等の部分をご覧ください。

1 段目の「なりた環境ネットワーク加入団体数」につきましては、団体の解散により、1 団体減少しまして 68 団体となりました。今後も目標達成に向けて、新たな会員の加入に結びつくような取組を検討してまいります。

2 段目の「環境に関する国際交流の推進」につきましては、前年度に引き続き、産業まつりや成田市多文化交流フェスティバルにおいて、ごみと資源の分別に関する啓発ブースを出展いたしました。今後についても、他市の事例などを参考に新たな手法などについて検討してまいります。

最後に本年次報告書につきましては、庁内における環境管理委員会による施策の評価を実施した後、市のホームページで公表いたします。

以上、大変雑駁ではございますが、「2025(令和 7)年度成田市環境基本計画年次報告書」についてのご説明とさせていただきます。

【原会長】

ありがとうございました。それでは、ご意見・ご質問の回答、また、先ほどの事務局の説明を受けて、さらにご意見がある場合は挙手にてお願いします。

なお、委員からのご意見・ご質問や事務局の回答は簡潔にお願いします。

【清田委員】

一点、状況を確認させていただければと思っております。

21 ページ目から 23 ページ目のところに、気候変動への適応策というかたちで記載していただいておりますが、その中に、熱中症対策の取組として書かれている部分があるかと思います。確かに最近、特に夏が従来と比べてもかなり暑くなってきておりますので、この熱中症対策に向けた啓発というのはすごく重要だと思っております。

その一方で、ここまで暑くなってくると、子どもの熱中症対策も非常に重要だと思っております。最近、国でも、小・中学校の体育館にも空調を導入していくべきということで、推進されているところでございます。

そのような状況の中で、成田市においても小・中学校の体育館では、従来は空調をしていなかったと思うのですが、その辺の整備状況や検討状況についてぜひお教えいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【環境計画課 栗澤課長】

空調関係ですけれども、学校の校舎に関しても、順次進めているところでありまして、体育館についても、同様に順次進めているところです。

教育委員会で進めているところですが、熱中症対策は環境部も関係してくるので、推進をお願いしているところです。

【清田委員】

ありがとうございます。結構重要な視点になってきているかと思いますので、ぜひ関係部署で連携しながら、整備の方の推進をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

【片岡副会長】

今の体育館の空調の話がありましたけども、体育館は未だにまだ蛍光灯なんですよね。学校関係も多分もう LED に切り替わっていると思うんですが、体育館の蛍光灯を LED へ切り替える予定はあるのでしょうか。

【環境計画課 栗澤課長】

蛍光灯から LED に切り替えるということで、環境部では順次進めるよう関係部署にお願いしているところです。実際、もうご存知かと思いますが、蛍光灯はもう作られないし、使えなくなっていくっていうのがもう目に見えてわかっていますので、その辺りを財政部局もそうですし、教育委員会とも連携しながら進めていきたいと考えております。

【原会長】

ほかに、ご意見等はございませんでしょうか。無いようでしたら、次の議題2に移ります。

●議事② 2025(令和 7)年度成田市一般廃棄物処理基本計画年次報告書についての説

明、質疑

【原会長】

議題(2) 2025(令和 7)年度成田市一般廃棄物処理計画年次報告書について事務局からさらに補足説明などがありましたら、要点に限って簡潔にご説明をお願いいたします。

【環境計画課 大嶋副主査】

環境計画課 大嶋と申します。

それでは、議題の(2)2025(令和 7)年度 成田市一般廃棄物処理基本計画年次報告書について、ご説明させていただきます。

まずは 1 ページをご覧ください。こちらから 3 ページにかけましては、計画の基本事項として、目的及び上位計画との位置付け、また PDCA サイクルに基づく進行管理などについて記載しております。

次に、4 ページから 5 ページをご覧ください。本計画は「ごみ処理」と「生活排水」の 2 つに焦点を当てた計画であり、ここでは、ごみ処理基本計画編として、数値目標や目標に対する実績を記載しております。

計画目標に対する 2025(令和 7)年度の実績をご説明いたします。ごみの総排出量は、目標 48,624 トンに対し、実績が 47,116 トンとなっております。1 人 1 日当たりの総排出量は、目標 969 グラムに対し、実績が 968 グラム、1 人 1 日当たりの家庭系ごみ排出量は、目標 459 グラムに対し、実績が 503 グラムとなりました。

加えて、リサイクル率は、目標 25.1 パーセントに対し、実績が 20.2 パーセント、最終処分率は、目標 6.0 パーセントに対し、実績が 2.6 パーセントという結果になりました。

これらの数値のうち、1 人 1 日当たりの家庭系ごみ排出量とリサイクル率は、計画目標を達成しませんでした。

さらに掘り下げると、ごみの総排出量は令和元年度以降、年々減少傾向にあるものの、1 人 1 日当たりの家庭系ごみ排出量と、リサイクル率が計画目標を達成しておりません。

これには様々な理由が考えられますが、その一因として、成田富里いずみ清掃工場に搬入される可燃ごみとして本来は資源物である紙・布類が、全体の半分近くを占めており、また、3 割近くを占めるビニール・ゴム・皮革類の中にもリサイクルできるプラスチック製

容器包装が含まれており、多くの資源物がリサイクルされずに処理されていると考えられます。

市民一人一人がごみと資源物を正しく分別し、ごみの排出量をさらに減らせるよう引き続き周知啓発、さらなるリサイクルの推進を図ってまいります。

また、リサイクル率につきましては、令和 7 年度も道路の溶融スラグ入りアスファルト合材の需要が想定よりも少なく、清掃工場から生成される溶融スラグの販売量が減少したことが要因の一つと考えております。今後も溶融スラグを安定供給できるよう関係機関との協議を図ってまいります。

続いて 6 ページは、取り組みごとの担当課の一覧となっております。

7 ページから 32 ページでは、計画の目標達成に向けた取り組みの内容や実績、成果や評価、今後の課題や方針を記載しております。

ここで資料の訂正をさせていただきます。28 ページをご覧ください。

「処理生成物の有効活用の検討と実施」でございますが、表の上から 3 段目「取組の成果・評価」の部分をご覧ください。

この中の表、1 段目「スラグ売却量(t)」の「R7 年度」に「1847.40」とありますが、「カンマ(,)」が抜けております。1 と 8 の間に「カンマ(,)」が入ります。

また、表の上から 4 段目「規格外スラグ等 再資源化処理委託料(円)」の「R6 年度」に「3,128,353(円)」とありますが、正しくは「32,546,873(円)」です。

つきましては大変申し訳ありませんが、訂正していただきますようお願いいたします。

続きまして、33 ページをご覧ください。ここからは、生活排水処理基本計画編となります。基本的な理念や方針、及び数値目標を記載しております。

また 34 ページでは、計画目標に対する実績、取り組みごとの担当課を記載しております。

2025(令和 7)年度の実績は 93.5 パーセントとなっており、2027(令和 9)年度の目標 97.3 パーセントを下回っている状況ではありますが、徐々に上昇している傾向にあります。

35 ページから 39 ページでは、目標達成に向けた取り組みの内容や実績、成果や評価、今後の課題や方針を記載しております。

最後に、この年次報告書は、後日、当市のホームページで公開予定ですので、よろしくお願いいたします。

以上、大変雑駁ではございますが、2025(令和 7)年度 成田市一般廃棄物処理基本計画年次報告書の説明となります。

【原会長】

どうもありがとうございました。事務局からの説明はこれでよろしいでしょうか。それでは、ご意見・ご質問への回答、また、先ほどの事務局の説明を受けて、さらにご意見等がある場合は挙手にてお願いいたします。

【入江委員】

今のご説明で、5 ページですけども、このリサイクル率というのは、先ほどスラグの話が出たと思うんですが、これはどういう計算になるのでしょうか。

【クリーン推進課 小川課長】

リサイクル率につきましては、まず分母の方が、ごみ処理量と、集団回収、こちらは自治会とか、リサイクル団体さんで集められたリサイクル資源物、それとお店から市が回収しているペットボトルなどの合計となります。分子の方が、直接資源化した量(紙類、衣類・布類)や、施設で資源化した量、例えばスラグのほか、リサイクルプラザにおきまして、家具とか自転車とか使えるものを再生品として扱うものや、あとはプラスチック製のペットボトルとかプラスチック製容器包装などのリサイクルできるものになります。そういった資源物などの量を分子として分母で割った数値がリサイクル率になります。

【原会長】

よろしいでしょうか。他にご意見ご質問あればお願いいたします。無いようでしたら、次の議題3に移ります。

●議事③成田市の環境 2025(令和 7)年版についての説明、質疑

【原会長】

議題(3) ③成田市の環境 2025(令和 7)年版について事務局からさらに補足説明などがありましたら、要点に限りて簡潔にご説明をお願いいたします。

【環境計画課 檜垣係長】

では成田市の環境 2025(令和 7)年版について、私、檜垣よりご説明いたします。よろしくお願ひします。まず、「成田市の環境」の目次をご覧ください。

「成田市の環境」は「第 1 部 総論」と「第 2 部 各論 環境の現状と対策」の 2 部構成となっております。

第 1 部は、本市の位置や地形、人口、産業といった「成田市の概要」、また、環境部の組織や環境審議会など、成田市の「環境行政の体制」、環境基本条例や環境基本計画、施策を概説した「環境政策の推進」の 3 本建てとなっております。

続きまして、20 ページ以降の第 2 部は、大気質や水質、騒音・振動などの過去 10 年間の測定結果を中心に、本市の環境の現状と対策を示すものとなります。

それでは第 2 部について、第 1 章の大気汚染と第 2 章の水質汚濁を取り上げてご説明いたしますので、20 ページをお開き願ひします。

まず、第 1 章「大気汚染」については、20 ページの図 2-1-1 に示しております、本市及び県の測定局での測定結果を記載しております。測定局の位置につきましては、成田市が設置している幡谷及び大清水の測定局、県が設置している花崎町、加良部、および奈土の測定局となります。

光化学スモッグの汚染状態を示す、光化学オキシダントについて説明いたしますので、32 ページをお開きください。表 2-1-16 に、光化学オキシダント濃度の測定実績と環境基準との比較を示してございます。表に記載のとおり、いずれの測定局も「×」であり、環境基準を満たしておりませんでした。なお、光化学オキシダントにつきましては、成田市だけでなく全国的に厳しい状況で、県内ではすべての測定局で未達成であり、全国的にも基準を達成した測定局は極めて低い水準とのことです。

第 1 章ではその他に、硫黄酸化物、窒素酸化物、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、炭化水素、有害大気汚染物質、酸性雨、微小粒子状物質についてまとめてあります。環境基準があるものについては基準との比較も記載してございますので、ご確認ください。

つづきまして、43 ページをお開き願ひします。第 2 章では水質汚濁について記載しております。

まず、測定地点につきましては 51 ページの図 2-2-2 をご覧ください。主に、根本名川や大須賀川などの水系に沿って配置されております。

水質に関する基準につきまして、まず「生活環境の保全に関する環境基準」、略して「生活環境項目」と記載しておりますが、56 ページの表 2-2-5 をご覧ください。生活環境項目の環境基準達成状況を記載してございます。

令和6年度の測定結果といたしまして、汚れの程度を示す BOD や水中の不溶性物質の量を示す SS などの生活環境項目につきましては、環境基準を満たしていない河川や水路がみられ、特に大腸菌数では基準を満たしていない地点が多くありました。

つづいて、「人の健康の保護に関する環境基準」、略して「健康項目」の環境基準達成状況につきましては 62 ページから 66 ページにかけて記載してございます。カドミウムやヒ素、PCB などの健康項目につきましては、全地点・全項目で環境基準を満たしております。

第 2 部ではこの他に、第 3 章以降の各章で、騒音・振動、悪臭、土壤汚染などについて記載しております。

以上、大変雑駁で恐縮ですが、「成田市の環境」についての説明とさせていただきます。
よろしくお願いいたします。

【原会長】

どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの事務局の説明を受けまして、ご質問、ご意見ある方は、挙手のうえお願いいたします。よろしいでしょうか。

無いようですので、次の議題 4 に移ります。

●議事④動植物生息調査(第 4 次)についての説明、質疑

【原会長】

議題4 動植物生息調査(第 4 次)について、事務局からさらに補足説明などがありましたら、簡潔にご説明をお願いいたします。

【環境計画課 檜垣係長】

それでは、動植物生息調査(第 4 次)についてご報告いたします。

恐れ入りますが、資料 4「動植物生息調査(第4次)について」をご覧ください。本調査は、本市に生息する動植物の現状を把握し、過去の調査結果と比較することで、生息状況の

変化やその要因を整理し、今後の生物多様性保全に向けた基礎資料を得ることを目的としております。

また、第 1 次から第 3 次までの調査結果も含め、動植物の生息状況に係る総合的な解析を実施しました。

今回の第 4 次調査は、令和 6 年度から 7 年度にかけて実施しました。

調査対象は、成田国際空港区域を除く市内全域で、河川の集水域を意識した 12 ブロックに区分して調査を行いました。

資料 2 ページをご覧ください。調査の方法は、専門調査員による現地調査に加えて、市民参加型調査として、専用フォームから報告していただく手法も採用いたしました。

調査結果及び確認種の状況については、資料 2 ページから 3 ページに記載のとおりでございます。

いずれの分類群においても多様な種が確認されており、市内に、谷津田、河川、池沼、樹林、草地など、さまざまな環境が存在していることが、今回の調査でも確認されました。

重要種も多く確認される一方で、外来種数が増加傾向にあり、その拡大による生態系への影響が懸念されます。特に特定外来生物に該当するアライグマにつきましては、今年度に入り、市民の皆様から数多くのご相談をいただいている状況でございます。

解析結果としては、特に保全すべき環境として、谷津田環境、中小河川とその周辺、利根川・印旛沼などの河川や池沼、調整池や公園などの特殊環境を挙げております。これらは、生きものが単独で生息している場所というより、周辺環境とつながりながら、多くの動植物を支えている場所となります。

また、生物多様性へのリスクとしては、市街地化の進展や樹林の荒廃、外来種の拡大などが挙げられます。そのため、谷津田や社寺林などの保全を図るとともに、放置された山林や農地については、適正な管理へつなげていくことが課題と考えております。

今後は、重要種の生息状況や外来種の侵入・分布について、継続的な調査を行い、経年的な変化を的確に把握していくことが重要です。今回の調査結果は、今後の環境保全施策を考えるうえでの重要な基礎資料として活用してまいります。

以上、大変雑駁で恐縮ですが、「動植物生息調査(第 4 次)について」の説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【原会長】

どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの事務局の説明を受けまして、ご質問、ご意見ある方は、挙手のうえお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは私からですが、他の資料に比べてこれは淡白なんですけれども、以前の打ち合わせのときに結構膨大な資料を拝見させていただきました。この裏付けとなっている資料は、公表とかされるのでしょうか。それと、この後の状況をお伺いしたいと思います。

【環境計画課 栗澤課長】

その件に関しては非常に申し訳ないですが、本編の再確認等を最終的に終わらせたところで、概要版の方の確認に入っているところです。

最終的にはホームページ等で公表していく予定ですので、もう少しお時間いただければと考えております。また、同じくですね、デジタルコンテンツというものをご用意しています。バーチャルによりですね、360 度の画像で確認できるようなものを用意しているんですが、そちらも今、市のホームページに掲載に向け、システムの関係で調整しているところです。ちょっとお時間いただければ、皆さんにご覧になっていただけるものと考えております。

【原会長】

ありがとうございます。もう一点なんですけれども、この資料 4 の最後のページに、生物多様性のリスクとその対応策っていうところで、「谷津田や社寺林等の保全を図っていく必要がある」という、まさにその通りだと思うんですけれども、具体的に何か政策等を考えていらっしゃるかどうかお伺いいたします。

【環境計画課 栗澤課長】

現在、環境基本計画の策定に向けて準備を進めており、こちらの方も今、準備を行っているところです。今、国の方でも生物多様性地域戦略の策定などの話も上がっていますので、引き続き今回の動植物調査の結果を踏まえていきたいと思っています。

【原会長】

よろしくお願いいたします。他に何かご質問、ご意見あればお願いいたします。

よろしいでしょうか。これで議事は終わります。

他にご質問ないようでしたらば、本日の議事は終了いたします。続いてその後、3 のその他に移ります。委員の皆様や事務局から何かあればお願いいたします。何でも結構です。事務局お願いいたします。

【環境計画課 檜垣係長】

それでは、事務局より1件、成田市カーボンニュートラル推進会議 事業者向けシンポジウムについて、ご報告いたします。本日配付しておりますチラシをご覧ください。

このシンポジウムは、本市が 2050 年カーボンニュートラルの実現を目指し、市と事業者、また事業者同士の交流を促進し、新たな取組のきっかけづくりを進めるために開催いたしました。

開催日は、令和 8 年 7 月 29 日水曜日、会場は成田国際文化会館 2 階 国際会議室です。当日は、約60名の方にご参加いただきました。

内容としましては、3 部構成で、第 1 部の基調講演では、環境省地球環境局地球温暖化対策課 脱炭素ビジネス推進室長の小野氏と、千葉大学大学院の倉阪教授より、脱炭素の基本や、事業者求められる役割についてご講演いただきました。

続いて第 2 部では、ショートピッチとして、成田国際空港株式会社、東京ガス株式会社、株式会社ナリコーの 3 社から、それぞれの取組をご紹介いただきました。

第3部では、倉阪教授をモデレーターとして、第 2 部で登壇いただいた 3 社の代表者によるパネルディスカッションを行い、事業者求められる脱炭素への対応をテーマに意見交換が行われました。

なお、本審議会の委員でもある東京ガス株式会社千葉支社長の清田様には、ショートピッチ及びパネルディスカッションにご協力いただき、ありがとうございました。

シンポジウムを通じて、脱炭素は一部の事業者だけの課題ではなく、地域全体で連携しながら進めていくべき重要な取組であることが共有されたものと受け止めております。

なお、次回取組といたしましては、令和9年1月頃に、事業者の取組を紹介するショートピッチを行う予定としております。

本市といたしましても、このシンポジウムをきっかけに、引き続き事業者の皆さまとの連携を深めながら、脱炭素の取組を進めてまいりたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、成田市カーボンニュートラル推進会議事業者向けシンポジウムについての報告とさせていただきます。

【原会長】

どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの事務局の説明を受けまして、ご質問、ご意見ある方は、挙手のうえお願いいたします。

【藤村委員】

このシンポジウムにおける、例えばパワーポイントとかの資料とかそういったものの一部でも、どこかで公表とかされてますでしょうか。インターネットで見れば見れるということとはありますか。

【環境計画課 栗澤課長】

今回登壇いただいた方に、その資料を公開していいかの確認をしているところです。続々とですね、載せてもいいよってというお答えはいただいていますので、現在公開に向けホームページを準備しているところです。成田市環境計画課のページに載せる予定ですので、その際は検索で見られるような状況になると考えています。

【藤村委員】

ありがとうございます。

【原会長】

他にご質問あればお願いいたします。事業者向けとしてシンポジウムを開催されたと思うのですが、市民向けとかですね、何かそういった催し物とかはされているのでしょうか。

【環境計画課 栗澤課長】

市民向けはで成田環境ネットワークという団体のイベント等を通じて、環境意識の醸成を図っているところです。今までは、事業者向けの取組がなく、この CO₂ 削減に関しては、事業者の協力がなくなかなか達成できないものと考えていますので、今回、事業者向けに特化したかたちで実施したものです。市民向けについても今後検討していきたいと考えております。

【原会長】

よろしくお願いいたします。他にご質問、ご意見あればお願いいたします。

その他で他によろしいでしょうか、皆様方から。ないようでしたら最後に私から一言だけ。

今、カーボンニュートラルの取り組みをご紹介いただきましたけれども、最初に藤崎部長からお話があったとおり、気候変動とネイチャーポジティブなどの生物多様性の取組が一体となって初めて両方の問題が解決するということがよく言われます。今、カーボンニュートラルの脱炭素なり、気候変動の方は、市民、事業者ともに熱心に取り組んでいることがよくわかりました。

一方で、生物多様性の方も、基本的には、二酸化炭素を吸ってくれるのは植物ですし、今、貴重な調査をされて結果も拝見しましたけれども、その他いろんな生態系サービスを行う存在としての生き物の方にも目を向けた施策に活かせるようお願いしたいと思います。私からは以上です。

それでは以上で予定された議事すべて終わりましたので、会議を終了いたします。議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

【環境計画課 北見主幹】

原会長、ありがとうございました。

●閉会